

令和7年度

シ ラ バ ス



3 学 年

北海道おといねっふ美術工芸高等学校

教 育 課 程 表

令和 7 年度 学年別教育課程表

教 科		科 目	標 準 単 位 数	1 年	2 年		3 年	
				共通	工芸	美術	工芸	美術
各 学 科 に 共 通 す る 各 教 科 ・ 科 目	国 語	現 代 の 国 語	2	2				
		言 語 文 化	2	2				
		論 理 国 語	4		3	3	2	2
	地 理 歴 史	地 理 総 合	2		2	2		
		歴 史 総 合	2				2	2
	公 民	公 共	2	2				
	数 学	数 学 I	3	3				
		数 学 II	4				3	3
		数 学 A	2		2	2		
	理 科	化 学 基 礎	2				2	2
		生 物 基 礎	2		2	2		
		地 学 基 礎	2				2	2
	保 健 体 育	体 育	7～8	2	2	2	3	3
		保 健	2	1	1	1		
	芸 術	美 術 I	2	2				
		美 術 II	2		2	2		
		美 術 研 究	4					4
	外 国 語	英語コミュニケーションⅠ	3	3				
		英語コミュニケーションⅡ	4		3	3	3	3
	家 庭	家 庭 基 礎	2		2	2		
	情 報	情 報 I	2	2				
主として専門学科において開設される各教科・科目	工 業	工 業 技 術 基 礎	2～4	4				
	美 術	美 術 概 論	2～4			2		
		素 描	2～6				2	2
		絵 画	2～4			4		
	工 芸	図 法 ・ 製 図 I	2	2				
		図 法 ・ 製 図 II	2		2			
		木 工 制 作 I	4	4				
		木 工 制 作 II	4		4	4		
		工 芸 制 作	4		4			
		課 題 研 究	4				3	3
		工 芸 研 究	4				4	
小 計				2 9	2 9	2 9	2 6	2 6
総 合 的 な 探 究				0	0	0	3	3
ホ ム ル ム 活 動				1	1	1	1	1
合 計				3 0	3 0	3 0	3 0	3 0

教科名	国語		科目名	論理国語	学年	3学年
教材	教科書	論理国語			単位数	2
	副教材	①意味と書き分けがわかる漢字Lab3500頻出語（浜島書店）			履修区分	共通
		②新版六訂 カラー版 新国語便覧（第一学習社） ③論理国語学習課題ノート（大修館書店）				
学習の 目標	1 近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高める					
	2 ものの見方、感じ方、考え方を深め、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を育てる。					
	3 国語に主体的に取り組む態度を養う。					
学習の 進め方	1 グループワークなどを通じて他者との協働性を高める。					
	2 現代文を読んで、論理の展開、筆者の主張を的確に読み解く力を向上させる。					
	3 表現技法を理解、駆使しながら豊かに自己を表現できる能力を養う。					

期	月	単元名	具体的な学習内容	考查等
前	4	○自己と他者／ ・「贈り物」としてのノブレス・オブリージュ	・本文の読み取りを通じて自己の思いや考えを深める。	
	5	・相手を意識して書く ○コミュニケーションの手段／ ・記号的メディアと物理的メディア	・自身を客観視し、認識を深める。 ・情報の取捨選択と自己の認識を深める。	
	6	○メディアの変容／ ・消費されるスポーツ	・複数の文章を比較・分析しながら読み考えを深める。	単元テスト ノート提出
	7	・仮説を立てて検証する	・特定のテーマについて比較・分析する。 ・複数の文章を読んで考えたことを書く。	
	8	○言語の探求／ ・猫は後悔するか	・日本や世界の課題に興味を持ち考えを広げる。	
	9	○政治と社会／ ・多数決を疑う	・問いを立てて書く。	[期末考查] ノート提出
	前期目標			
後	10	・「である」と「する」こと	・対比の役割を意識して本文を読み、筆者の主張を的確につかむ。	
	11	○存在への問い ・日常に走る亀裂	・関心をもったテーマに関連する文章や資料を読み自分の考えや解釈を深めて意見文にまとめる。	単元テスト
	12	○歴史と時間／ ・日本文化の三つの時間	・日本や世界が抱える課題に関心を持ち、考えを広げたり、深めたりする。	
	1			
	2			
	3			
	後期目標			

評価方法	・ 定期考查・単元テストの成績、課題やノートの内容や提出状況、日常の授業への参加態度等で評価します。 ・ 国語科の観点別学習状況の評価の3観点に立ち総合的に評価します。		
評価の観点	【知識・技能】	表現、理解のための音声、文法、表記、語句、語彙、漢字を身につけたか。	30%
	【思・判・表】	自分の考えを発展させながら、目的に応じた文章の読み取りが出来るか。	50%
	【主体的態度】	積極的に言語活動に取り組み、自己や社会に対する関心を持って学んでいるか	20%

教科名	地理歴史		科目名	歴史総合	学年	3 学年
教材	教科書	歴史総合 近代から現代へ （山川出版）			単位数	2
	副教材	歴史総合 近代から現代へ ノート （山川出版）			履修区分	共通
学習の 目標	1 社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせられるようになる。					
	2 課題を追究したり解決したりする活動を行う。					
	3 広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す					
学習の 進め方	1 前期は教科書の元に第二次世界大戦以前を中心に、後期はそれ以降の歴史を中心に学びます。					
	2 講義、史資料の読解（統計データ、新聞、原典資料、芸術作品等）、ディスカッション、プレゼンテーション、模擬活動、レポート作成などを授業内で行います。					
	3 定期考査や単元テストを通し、学習内容の理解を深めます。					

期	月	単元名	具体的な学習内容	考查等	
前	4	○オリエンテーション ○歴史の扉 ○近代化と私たち	・ 結びつく世界	※考查毎にワーク・ファイルを提出します。	
	5		・ 近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立	・ レポート	
	6		・ 明治維新と日本の立憲体制	・ 中間考查 ・ ファイル提出	
	7		・ 帝国主義の展開とアジア		
	8				
	9	○国際秩序の変化や大衆化と私たち	・ 第一次世界大戦と大衆社会 ・ 経済危機と第二次世界大戦	・ 期末考查 ・ ファイル提出	
前期目標					
後	10		・ 戦後の国際秩序と日本の改革		
	11	○グローバル化と私たち	・ 冷戦と世界経済		
	12		・ グローバル化する世界	・ ファイル提出	
	1		・ 現代の課題	・ レポート作成	
	2	家庭学習期間			
	3				
後期目標					

評価方法	・ 定期考査・単元テストの成績、ワークやファイルの提出状況、レポートの内容、グループワークへの取り組み方等で総合的に評価します。 ・ 地理歴史科の観点別学習状況の評価の3観点を基本として評価します。		
評価の 観点	知識 ・ 技能	歴史的な事象について理解しているとともに、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。（テスト、レポートや提出物の内容等）	40%
	思考・判断 ・ 表現	歴史的な事象に関する事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察し、構想、表現、議論ができるか。（テスト、レポート、提出物の内容等）	30%
	主体的に学習 に取り組む態度	歴史に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に、課題を主体的に解決しようとしている。（テスト、提出物の内容等）	30%

教科名	数学		科目名	数学II	学年	3 学年
教材	教科書	新 高校の数学II			単位数	3
	副教材	改訂版 基本と演習テーマ 数学II（数研出版）			履修区分	共通
学習の 目標	1 計算をするための基本的な考え方や、新たな概念への理解を深める。					
	2 式や関数を事象の考察に活用できるようにする。					
	3 微分・積分に関する性質を理解し、事象の考察に活用できるようにする。					
学習の 進め方	1 前期は教科書の内容を中心に、式の計算、性質、複素数平面について学ぶ					
	2 後期は教科書の内容を中心に、関数、微分、積分について学ぶ					
	3 毎時課題を課し、学習習慣を確立しつつ理解を深める。					

期 月	単元名	具体的な学習内容	備考欄
前	4 ○オリエンテーション 1 章：複素数と方程式	・数学IIの学習について ・展開・因数分解・分数式 ・複素数と2次方程式	・週末課題を出す。 ・朝学習の際に課題をだす。
	5	・整式の割り算 ・因数定理と高次方程式 ・直線の方程式	
	6 2 章：図形と方程式	・直線との関係 ・円、円と直線	・中間考査
	7	・指数関数 ・指数関数対数関数	
	8 第5章 微分・積分	・関数の合成 ・微分係数と接線 ・導関数の性質	
	9	・微分と接線	・期末考査
前期目標			
後	10 第5章 微分・積分	・関数の増減とグラフ ・関数の極大極小 ・不定積分と定積分	
	11	・積分の性質 ・定積分と面積	
	12 第3章 三角関数	・三角関数の拡張 ・度数と弧度	
	1	・関数のグラフ ・加法定理	
	2		
	3		
後期目標			

評価方法	・定期考査、単元テスト、ノートの提出、日常の授業への参加態度等で評価する。		
評価の観点	【知識・技能】	数学を通して学びを得るために学習し、振り返りを通して更なる学習に取り組もうとしているか。	40 %
	【思考力・判断力・表現力】	事象を数学的に考察しようとしたり、思考の過程を多面的・発展的に考えたりしているか。	20 %
	【主体的に学習に取り組む態度】	事象を数学的に表現・処理する仕方や技能・知識を身につけているか。	40 %

教科名	理科		科目名	化学基礎	学年	3
教材	教科書	新編 化学基礎			単位数	2
	副教材	改訂版 リードLightノート 化学基礎			履修区分	共通
学習の 目標	1 化学が人間生活に果たしている役割を理解する。					
	2 原子の構造及び電子配置と周期律の関係を理解する。					
	3 化学の基本的な概念や法則を理解する。					
学習の 進め方	1 教科書を中心に、原子の構造や化学の基本概念や法則を習得します。					
	2 実験や観察を通して、科学的に考え、探究する力を身につけます。					
	3 プリントやレポートを通して自身の考えを表現する力を身につけます。					

期	月	単元名	具体的な学習内容		考查等
前	4	第1編 物質の構成と化学結合 ○物質の構成	・混合物と純物質 ・物質とその成分		
	5	○物質の構成粒子	・物質の三態と熱運動 ・原子とその構造		・小テスト
	6	○粒子の結合	・イオン ・元素の周期表 ・イオン結合とイオンからなる物質		・中間考查 ・ノート、ファイル提出
	7		・分子と共有結合 ・共有結合結晶 ・金属結合と金属		
	8	第2編 物質の変化 ○物質質量と化学反応式	・原子量、分子量、式量 ・物質質量		
	9		・溶液の濃度		・期末考查 ・ノート、ファイル提出
前期目標					
後	10	○酸と塩基の反応	・化学反応式と物質質量 ・酸、塩基 ・水の電離と水溶液のpH		・小テスト
	11	○酸化還元反応	・中和反応 ・塩 ・酸化と還元		・単元テスト ・ノート、ファイル提出
	12		・酸化剤と還元剤		
	1		・金属の酸化還元反応 ・酸化還元反応の利用		・単元テスト
	2				
	3				
後期目標					

評価方法	・定期考查、小テストの成績、プリントの取り組み状況、宿題の提出状況、レポート等の表現力、実験・観察レポートの内容で評価します。 ・理科の観点別学習状況の評価の3観点を基本として評価します。				
評価の観点	【知識・技能】	定期考查、ノート、ファイル、レポートの状況、授業時の様子 など			30%
	【思・判・表】	定期考查、実験レポート、ファイルの状況			30%
	【主体的態度】	授業時の様子、提出物等の提出状況			40%

教科名	理科		科目名	地学基礎	学年	3
教材	教科書	高等学校 地学基礎			単位数	2
	副教材	新課程 リードLightノート 地学基礎			履修区分	共通
学習の 目標	1 宇宙の誕生から現在の地球に至るまでを時間的・空間的な広がりの中でとらえる。					
	2 観察・実験を通して、地学的に探究する能力と態度を身につける。					
	3 地学の基本的な概念や原理・法則を理解し、地学的な見方や考え方を養う。					
学習の 進め方	1 教科書を中心に、地学についての基本的な原理や法則を理解します。					
	2 実験や観察を通して、科学的に考え、探究する力を身につけます。					
	3 プリントやレポートを通して自身の考えを表現する力を身につけます。					

期	月	単元名	具体的な学習内容	考查等
前	4	第1編 活動する地球	・地球の構造	
	5		・プレートの運動 ・地震 ・火山	・小テスト
	6	第2編 移り変わる地球	・地層の形成 ・古生物の変遷と地球環境	・中間考查 ・ノート、ファイル提出
	7			
	8	第3編 大気と海洋	・地球の熱収支 ・大気と海水の運動	
	9			・期末考查 ・ノート、ファイル提出
前期目標				
後	10	第4編 地球の環境	・地球の環境と日本の自然環境	・小テスト
	11	第5編 太陽系と宇宙	・太陽系と太陽	・単元テスト ・ノート、ファイル提出
	12		・宇宙の誕生	
	1			・単元テスト
	2			
	3			
	後期目標			

評価方法	・定期考查、小テストの成績、プリントの取り組み状況、宿題の提出状況、レポート等の表現力、実験・観察レポートの内容で評価します。 ・理科の観点別学習状況の評価の3観点を基本として評価します。		
評価の観点	【知識・技能】	定期考查、単元テスト、ノート、ファイル、レポートの状況 など	30%
	【思・判・表】	定期考查、単元テスト、実験レポート、ファイルの状況	30%
	【主体的態度】	授業時の様子、提出物等の提出状況	40%

教科名	保健体育		科目名	体育		学年	3 学年	
教材	教科書	現代高等保健体育				単位数	3	
	副教材	ステップアップ高校スポーツ				履修区分	共通	
学習の目標	1 体育活動をとおして運動の楽しさや喜びを味わい、技術向上を目指す。							
	2 作戦や戦略を組み立て、課題を発見し、解決に向けて考えたり判断したことを他者に伝える力を養							
	3 公正に取り組み、互いに協力しながら健康・安全を確保し、運動に親しむ態度を養う。							
学習の進め方	1 応用的な運動領域に触れ、課題解決能力を身につけます。							
	2 班活動による集団学習を通して参画、公正、協力、責任の態度を養います。							
	3 学習した内容をワークシート等で振り返り、理解を深めます。							
期	月	単元名		具体的な学習内容			考查等	
前	4	○オリエンテーション ○新体力テスト ○体づくり運動		・自己の体力に気付き、向上させていく。 ・体力トレーニングについて			・新体力テストの実施	
	5	○新体力テスト ○体育理論 → 安全の確保について ○器械運動		・手軽な運動、実生活に生かす運動 ・マット運動の基本技能の習得 〈能力に応じて技を選択し、連続技を組み立てる〉			・技能テストの実施	
	6	○体づくり運動 ○ダンス ○体育理論 →		・フォークダンス、創作ダンス ・文化的特徴や発展について				
	7	○ダンス ○ニュースポーツ		・現代的なリズムのダンス ・モルック				
	8	○ダンス ○ニュースポーツ		・現代的なリズムのダンス ・ボッチャ			・発表会の実施	
	9	○ニュースポーツ ○体育理論		・キンボール ・生涯スポーツについて				
	前期目標		・運動の合理化や課題解決能力を身につける。 ・仲間と協力して行うことや表現することを目指す。 ・健康・安全に留意させ、自己防衛力や危機管理能力を向上させる。					
後	10	○球技		・バレーボール（ネット型） （ルールの理解、個人技能の習得を目座す）			・技能テストの実施	
	11	○球技		・バスケットボール （ルールの理解、個人技能の習得を目指す）			・技能テストの実施	
	12	○体育理論		・生涯スポーツの見方・考え方（体育祭）				
	1	○スキー		・ゲレンデスキーの滑走法を理解し、習得します。				
	2							
	3							
	後期目標		・自分の意見や他者の意見を伝えたり理解し、課題解決を目指す。 ・体力の構成要素である行動力と生存力の保持増進を目指す。 ・応用的な運動領域に触れ、継続的な技能の向上を目指す。					
評価方法		・技能テストだけでなく、授業に取り組む姿勢や、公正、協力、責任などの態度、ワークシートの提出状況等を総合的に評価します。						
評価の観点	【知識・技能】	・運動の合理的、計画的な実践を通して技術だけでなくルール等を身につけているか。					50	%
	【思・判・表】	・課題を発見し、解決の仕方や気付いたことについて自己や仲間の考えたことを他者に伝えたりしているか。					30	%
	【主体的態度】	・公正に取り組み、仲間と協力したり、関わろうとしているか。					20	%

教科名	芸術（美術）		科目名	美術研究		学年	3学年	
教材	教科書	なし			単位数	4		
	副教材	なし			履修区分	美術選択		
学習の 目標	1 様々な表現や技法について学び、独自の表現力を身につける。							
	2 絵画の制作活動や鑑賞を通して、自己の視点と他者の視点を比較し、感性を高める。							
	3 レポート作成をとおして自己の在り方生き方を見つめ、豊かな心情を育てる。							
学習の 進め方	1 F100号程度の絵画を制作し、自己の表現について考え、主題を設定します。							
	2 名作や自他の作品を鑑賞し、表現の特質、お互いの良さについて学びます。							
	3 レポートを作成し、自身の制作を振り返り、自己の表現について発表します。							

期	月	単元名	具体的な学習内容	備考欄
前	4	○オリエンテーション ○構想	・1年間の活動について ・レポートについて ・資料収集、モチーフ取材 ・表現の学習 ・様々な画材の特徴について学ぶ ・主題設定、技法の検討 ・習作(実寸サイズの紙または小パネルに制作) ・習作を発表・鑑賞 ・キャンバス組み立て ・下描き ・下地づくり ・彩色 ・ワークシートを活用し、今後の見通しを立てる。	・資料はインターネットや出版物ばかりに頼るのではなく、できるだけ自分の力で集めること。 ・自分の表現に適した画材や技法を選択する。 ・習作でしっかり主題や技法を練ること。 ・キャンバスの組み立て、キャンバス張りは一人で行わずお互い協力して行うこと。水張りも同様。 ・主題・制作の振り返りと今後の見通しについて計画する。
	5	○習作の制作		
	6	○中間発表①(習作) ○本制作		
	7	○本制作		
	8	○本制作		
	9	○本制作		
前期目標				
後	10	○本制作	・レポートについて ・再検討 ・修正 ・細部描込み ・微調整	・制作の途中経過や今後の制作について発表、及び鑑賞を行う。
	11	○中間発表②(本制作) ○本制作		
	12	○仕上げ ○卒業制作発表準備		
	1	○卒業制作発表		・卒業制作発表及び鑑賞。 ・1年間の制作を振り返る。
	2			
	3			
	後期目標			

評価方法	プリント提出状況、課題に対する創造力、技術力、授業への意欲・態度、計画性、発表内容等により総合的に評価します。		
評価の観点	【知識・技能】	技法や画材の特性を理解し、設定した課題に効果的な表現ができたか。	40%
	【思・判・表】	適切な主題を設定し、実現に向けた構想をねることができたか。	30%
	【主体的態度】	自己の制作に向き合い、計画的に取り組むことができたか。自他の表現の意図や工夫を感じ取り、味わうことができたか。	30%

教科名	外国語		科目名	英語コミュニケーションⅡ	学年	3 学年
教材	教科書	MY WAY English Communication Ⅱ（三省堂）			単位数	3
	副教材	①速読英単語必修編 改訂第8版 ②Vision Quest New English Grammar 47 WORKBOOK			履修区分	共通
学習の 目標	1 英語による指示や、説明の概要を理解する。様々な英語を聞いたり読んだりして理解できる。 2 学習した内容や自分の経験・知識について、分かりやすい英語で話すことができる。 3 身近な出来事や自分について、豊かな表現力で読み手に伝わるように書くことができる。					
学習の 進め方	1 教科書をベースに、様々なタスクを通して学習した内容を用いて話す・書く練習をします。 2 ALTとの面接やペアワーク、英作文課題などで表現力を高めます。 3 ファイルや課題の提出、小テストなどを通して、学習した内容の理解を深めます。					

期	月	単元名	具体的な学習内容	備考欄
前	4	Lesson1 Dances Around the World	SVO (O=that/what節) SVO (O=if/whether節) SVO ₁ O ₂ (O ₂ =if/that/what節)	単語テスト① 音読①
	5	Lesson 2 Katsura Sunshine - Making the world Laugh	形式主語のit、形式目的語のit	音読②
	6	Lesson 3 Living with Nature - Takita Asuka's Journey	現在完了形、現在完了進行形 過去完了形、過去完了進行形	章末テスト①
	7	Lesson 4 Sesame Street	SVOC (V=知覚動詞、V=使役動詞) help+O+動詞の原形	
	8	Lesson 5 From Landmines to Herbs	関係代名詞、前置詞+関係代名詞 関係代名詞 (副詞) の非制限用法	章末テスト②
	9	Lesson 6 Murals - The Power of Public Art	助動詞の過去形、助動詞+完了形 完了不定詞	音読③
前期目標		・音読活動を通じて、長めの文章(CEFR B1レベル)の読解力、スピードを身につける。 ・Topicに対する自分の意見、一般論を分けて話すことができる。		
後	10	Lesson 7 "Englishes" in the World	分詞構文、受け身の分詞構文 完了形の分詞構文、付帯状況with	音読④
	11	Lesson 8 Deepika Kurup - The Science Behind Clean Water	仮定法過去、仮定法過去完了 ifを使わない仮定法、no matter+疑問詞	ワーク完成テスト
	12	Lesson 9 The World's Poorest President	同格のthat、強調構文、倒置、省略	音読⑤
	1	Lesson 10 Living in an E-Society - The Pros and Cons	eスポーツ、電子書籍などの長所や短所について考察する。	
	2			
	3			
後期目標		・音読活動を通じて、長めの文章 (CEFR B1~B2レベル) の読解力、スピードを身につける。 ・Topicに対する自分の意見、一般論を分けて話すことができる。また、発言者へ質問ができる。		

評価方法	・授業への積極的参加や態度、定期考査・各種テスト、ファイルやプリントの提出状況等を総合的に評価します。 協力してペアワークやグループワークに臨みましょう。 ・英語科の観点別学習状況の評価の3観点を基本として評価します。		
評価の観点	【知識・技能】	知識を理解し、身に付けるとともに、聞いたり読んだりして理解している。	40%
	【思・判・表】	話し合い・意見の交換ができ、情報や考え等を簡潔に表現することができる。	30%
	【主体的態度】	積極的な態度で言語活動に参加し、英語力の向上に努めている。	30%

教科名	美術		科目名	素描(美術コース)	学年	3学年	
教材	教科書	なし			単位数	2	
	副教材	なし			履修区分	美術選択	
学習の目標	1 対象のイメージや空間を把握し、造形表現の基礎となる観察力と思考力、描写力を高める。						
	2 自他の作品を鑑賞することで多様な視点から感性を磨き、表現の相違や共通性などを考察し、美術文化の発展と創造に寄与する態度、理解を育てる。						
学習の進め方	1 造形表現の基礎であるデッサンを繰り返し行い、技術を身に付ける。						
	2 様々な素材を組み合わせたモチーフをイメージの違いや空間をとらえながら描くことで、表現の方法を学び追及する。						
	3 作品を鑑賞し、描き方、良さを感じ取り、表現の工夫に生かす。						
期	月	単元名	具体的な学習内容		備考欄		
前	4	・オリエンテーション ・クロッキー ・工業製品	・素描について		・学習の見通しを持ちます。 ・基本的な道具については、はじめは学校で用意したものを使用し、必要に応じて各自で追加していきます。 ・デッサンの基本姿勢を身に付けます。 ・アウトラインだけで描かないよう注意し、物体と空間の間の処理について学びます。 ・質感の描き分け方を学びます。 ・奥行きや立体感を捉え、遠近に留意し空間を捉える力を養います。 ・デッサンのみならず、クロッキーなど鉛筆を用いた多様な表現方法に触れ、それぞれの違いについて学びます。 ・多様な主題に適応できる力を身に着けます。		
	5						
	6	・石膏木炭デッサン	・年間計画と評価について				
	7						
	8	構想デッサン	・様々な形態の把握方法 ・様々な表現方法について ・形態の把握について ・空間表現について ・量感について ・構図について ・木炭について				
	9						
	前期目標						
後	10	・組モチーフによる静物デッサン1 ・組モチーフによる静物デッサン2 ・1年間のまとめ	・様々な形態の把握方法 ・様々な表現方法について ・形態の把握について ・空間表現について ・素材感について ・量感について ・構図について				・質感の描き分け方を学びます。 ・奥行きや立体感を捉え、遠近に留意し空間を捉える力を養います。 ・美大受験に必要な資質と能力を磨き上げます。
	11						
	12						
	1						
	2						
	3						
	後期目標						
評価方法	授業中の取り組みの様子と課題の提出、技術力等により総合的に評価する。						
評価の観点	【知識・技能】	デッサンの基礎的・基本的な表現技能を身に付け主題に合った表現方法を創造的に表すことができたか。				40%	
	【思・判・表】	対象物をよく見てとらえ、創造的な表現の構想・構成を練ることができるか。				30%	
	【主体的態度】	明確な目的を持ち、主体的に表現や鑑賞の学習に積極的に取り組むことができるか。				30%	

教科名	美術		科目名	素描(工芸コース)	学年	3
教材	教科書	なし			単位数	2
	副教材	なし			履修区分	工芸選択
学習の 目標	1 対象のイメージや空間を把握し、造形表現の基礎となる観察力と思考力、描写力を高める。					
	2 自他の作品を鑑賞することで多様な視点から感性を磨き、表現の相違や共通性などを考察し、美術文化の発展と創造に寄与する態度、理解を育てる。					
学習の 進め方	1 造形表現の基礎である素描を行うことで、観察力や表現の技術を身に付ける。					
	2 様々な素材のモチーフを描き、形態の把握の仕方や陰影の付け方などを学ぶ。					
	3 作品を鑑賞し、描き方、良さを感じ取り、表現の工夫に生かす。					

期	月	単元名	具体的な学習内容	考查等
前	4	・オリエンテーション ・基礎のおさらい	・学習方法と評価の確認 ・制作時の諸注意	・学習の見通しを持ちます。
	5	静物デッサン①	・様々な形体・構造の把握について(かたちの取り方) ・様々な表現技法について(鉛筆・練りゴムのタッチ、素材感、質感など) ・対象への観察について ・構図、サイズ感など ・明暗について ・制作時間の使い方、進め方	・鉛筆の削り方や持ち方、練りゴムの使い方など、デッサンの基礎を再確認します。 また、表現の幅広さを学びます。
	6	静物デッサン②		・基本的な道具については、はじめは学校で用意したものを使用し、必要に応じて各自で追加していきます。
	7	静物デッサン③		・デッサンの基本姿勢を身に付けます。
	8	静物デッサン④		・アウトラインだけで描かないよう注意し、物体と空間の間の処理について学びます。
	9			
前期目標		・質感の描き分け方を学びます。		
後	10	クロッキー 静物デッサン⑤	・明暗について ・構成の仕方について ・描線について ・空間について ・量感について	・奥行きや立体感を捉え、遠近に留意し空間を捉える力を養います。
	11			・デッサンのみならず、スケッチやクロッキーなど鉛筆を用いた多様な表現方法に触れ、それぞれの違いについて学びます。
	12	静物デッサン⑥		・鉛筆の動かし方等応用的な表現技術を身に付けていきます。
	1	静物デッサン⑦		
	2			
	3			
後期目標				

評価方法	授業中の取り組みの様子、作品、提出物をもとに総合的に評価する。		
評価の観点	【知識・技能】	デッサンの基礎的・基本的な表現技能を身に付け主題に合った表現方法を創造的に表すことができたか。	40%
	【思・判・表】	対象物をよく見てとらえ、創造的な表現の構想・構成を練ることができるか。作品や対象物を見て良さや美しさを感じ取り、作品や言葉で表現し理解することができるか。	30%
	【主体的態度】	明確な目的を持ち、主体的に表現や鑑賞の学習に積極的に取り組むことができるか。	30%

教科名	工芸		科目名	課題研究	学年	3
教材	教科書	なし			単位数	3
	副教材	なし			履修区分	共通
学習の 目標	1 美術・工芸科目を通して学んだ技術を応用し、創造的に発展させた作品制作の力を育てます。					
	2 設定された課題をもとに、自ら考え解決していく力を培います。					
	3 制作の過程を通し、造形的視野を広めるとともに、感性を磨き、豊かな人間性を養います。					
学習の 進め方	1 1年間の制作計画を立てます。設定された課題をもとに、課題解決のための方法や工夫を考えます。					
	2 これまでに学んだ知識や技術、過去の作品や資料を活用し、自らの作品をより高める工夫をします。					
	3 発表や鑑賞をとおり、制作への知識や理解を深めます。					

期	月	単元名	具体的な学習内容	備考欄
前	4	オリエンテーション 課題設定と制作計画	・ 1年間の課題の進め方 ・ 制作に向けた課題理解 ・ 制作に向けた計画	・ 制作課題をどのような手段で達成するかを考える。 ・ 面談、制作の段取りを把握する
	5	・ 構想を練る	・ アイディアスケッチの制作 ・ 試作、習作の制作	
	6	本制作開始	・ 試作、習作の提出	・ これまでの制作過程をまとめる
	7			
	8		本制作	
	9	制作進捗の確認	・ 進め方の再検討	・ 自らの制作過程を振り返り進め方を再検討する。
	前期目標	早期に制作物の決定、製材・加工に入るよう、心がけよう。 見通しを持った制作を心がけ、自ら取り組める作業量を見極められるようにしよう。		
後	10	本制作		・ 教科担当者と面談し、制作の進捗状況把握と制作計画の調整を行う。
	11	本制作	・ 作品完成に向けた調整、修正	
		作品の完成	・ 撮影	
	12	制作のまとめ、資料の整理		・ 自らの制作をふりかえることで成果を確認する。 ・ 他者との学びを共有する。
	1	卒業制作発表	・ 研究結果の発表	※先輩の声を聞く会 ・ 清掃
	2			
	3			
後期目標	他者と協同して作業進捗の遅れが出ぬよう、前倒しで制作を進めよう。 制作をとおり学んだことや身につけたことなどをまとめ、発表時に伝えられるようにしよう。			

評価方法	評価の観点をもとに計画の進め方、制作、レポートから経過ごとに総合的に行う。				
評価の観点	【知識・技能】	制作課題に対しての技法、表現を深めていけたか。			30%
	【思考・判断・表現】	制作課題を自らの意図と繋がるように制作を考えていくことができたか。他者の取り組みや制作物を鑑賞し、自らの制作意識を高めることができたか。			40%
	【主体的態度】	制作課題の計画をもとに、主体的に制作を進めることができたか。			30%

教科名	工芸		科目名	工芸研究	学年	3
教材	教科書	なし			単位数	4
					履修区分	工芸
学習の 目標	1 学んだ知識を総合的に応用、発展的な技術の取得、創造的な作品の制作を目標とします。					
	2 制作の過程をととして、造形的視野を広めるとともに、感性を磨き豊かな人間性の形成を目指します。					
	3 選択教科として密度のある専門性を高めた作品の制作を目指します。					
学習の 進め方	1 1年間の制作計画を立てます。題材は個々が設定し、構想と基本的な設計を相談しながら進めていきます					
	2 過去に制作された作品や書籍などの資料を活用し、自らの作品をより高める工夫をしています。					
	3 これまでの選択科目で学んだ知識や技術を積極的に作品に取り入れていきます。					

期	月	単元名	具体的な学習内容	考查等
前	4	オリエンテーション テーマの設定	試作 ・1年間の課題の進め方。制作の記録。 ・テーマの設定と計画 ・構想、設計	
	5	制作	・縮尺模型、プロトタイプ ・図面 ・プレゼンテーションの準備	・加工に必要な機械の知識・技術の試験を行う。
	6	中間発表	・プレゼンテーション、再検討 ・テーマと制作についての発表 ・実制作	・試作を通して自らテーマ設定し、自身の制作計画を立てる。
	7		木取り	加工
	8		製材	
	9	制作進捗の確認	・進め方の再検討	・自らの制作過程を振り返り進め方を再検討する
前期目標				
後	10		・レポート作成について	
	11			
	12	1年間のまとめ	・作品の完成と提出	仕上げ 完成
	1	資料の整理 卒業制作発表	・研究のまとめの制作と提出 ・キャプションの制作と提出	・自らの制作をまとめることで成果を確認する ・他者と学びを共有する
	2			
	3			
後期目標				

評価方法	評価の観点をもとに計画の進め方、制作、制作資料から経過ごとに総合的に行う。		
評価の観点	【知識・技能】	テーマに対しての技法の習得、表現を深め、形にすることができたか。 制作の手順や方法を考えていくことができたか。	40%
	【思考・判断・表現】	自ら設定したテーマに対しての技法、表現を深め、形にすることができたか。	30%
	【主体的に学ぶ態度】	自らの制作に意欲的に取り組むことができたか。 他者の取り組みや制作物を通し、自らの制作意識を高めることができたか。	30%

教科名			科目名	総合的な探究の時間	学年	3
教材	教科書	なし			単位数	3
	副教材	なし			履修区分	共通
学習の 目標	1 探究の過程において、課題の設定と解決に必要な知識及び技能を育てます。					
	2 社会や生活との関わりから、課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現する力を培います。					
	3 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、よりよい社会を実現しようとする態度を養います。					
学習の 進め方	1 設定した課題をもとに、課題解決のために必要な知識や技能を身につけます。					
	2 制作過程での発見や意見交流、集めた資料を活用し、研究成果をまとめます。					
	3 制作や発表、鑑賞活動をとおり、制作への知識や理解を深め、互いの良さを認め合う心を養います。					

期	月	単元名	具体的な学習内容	備考欄
前	4	オリエンテーション ●課題設定と制作計画	・1年間の学習の進め方 ・制作に向けた課題理解・計画 ・研究テーマの設定	・制作課題をどのような手段で達成するかを考える。 ・面談、制作の段取りを把握する
	5	●構想を練る ●意見交流 ●本制作開始	・アイディアスケッチの制作 ・試作、習作の制作 ・意見交流を踏まえて本制作開始	・自らのアイディアを振り返り進め方を再検討する。
	6	●本制作	・本制作	・これまでの制作・研究内容をまとめる。
		●発表・まとめ	・発表・まとめ	
	7	○レポート作成について	・レポート作成に向けた内容の理解	
	8	○レポート作成	・レポートの制作開始	・レポートの内容、フォーマットについて
	9	○レポート作成	・制作過程についての整理	
前期目標	早期に制作物の決定、製材・加工に入るよう、心がけよう。 見通しを持った制作を心がけ、自ら取り組める作業量を見極められるようにしよう。			
後	10	○中間発表に向けて ○中間発表	・進め方の再検討 ・研究テーマと進捗状況について	・自らの制作過程を振り返り進め方を再検討する。 ・卒制委員会の立ち上げ
	11	○レポート作成	・制作過程についての整理	
	12	○レポート作成 ○発表内容等の入力	・研究結果のまとめ ・発表内容や方法の確認	・自らの制作をふりかえることで成果を確認する。
	1	○制作のまとめ、整理 卒業制作発表	・レポート内容の整理・提出 ・研究結果の発表	・他者との学びを共有する。
	2			
	3			
後期目標	他者と協同して作業進度の遅れが出ぬよう、前倒しで制作を進めよう。 制作をとおして学んだことや身につけたことなどをまとめ、発表時に伝えられるようにしよう。			

評価方法	評価の観点をもとに計画の進め方、制作、レポートから経過ごとに総合的に行う。				
評価の観点	【知識・技能】	課題解決のために必要な知識や技能を身につけることができたか。			
	【思考・判断・表現】	制作過程での発見や意見交流、集めた資料を活用し、研究成果をまとめることができたか。			
	【主体的態度】	主体的に課題に取り組み、自他の工夫や良さを理解することができたか。			